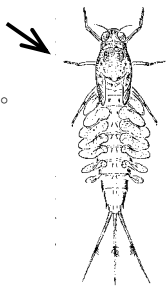


<用語集>

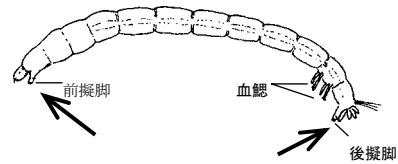
脚 (あし)

節足動物などに見られる体節に付く付属脚(肢)で、関節がある重要な運動器官。ちなみに、頭部の触角や大顎・小顎・下唇も付属脚(肢)が特殊化したもので、また腹部にも付属脚に由来する構造がみられることがある(「腹脚」の項目を参照)



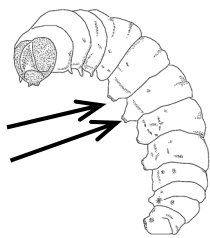
擬脚 (ぎきやく)

関節のある脚ではない、突起状の器官。先端に爪などがあることもあり、補助的な運動器官になっていることが多い。



腹脚 (ふくきやく)

節足動物の腹部の付属脚(肢)のことであるが、昆虫においては、歩行のための肉質で分節のない突起物のこと。鱗翅目幼虫で顕著にみられる。



吸盤 (きゅうばん)

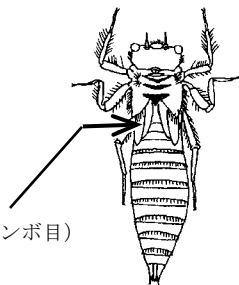
吸着器ともいい、動物が他物に吸着するための盤状構造のこと。ヒル類では体の前後両端に各1個あるが、後吸盤のほうがよく発達している。



原基 (げんき)

個体の発生においてある器官が形成されるとき、それが形態的・機能的に成熟する以前の段階をよぶ。

翅の原基 (トンボ目)



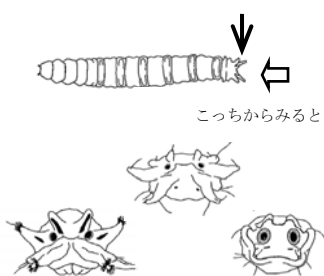
鰓 (えら)

水中生活をする動物に最も普通にみられる呼吸器官。水生昆虫には気管鰓・直腸(気管)鰓、尾鰓などがある。貧毛類ではエラミミズの尾部に糸状の鰓糸がある。



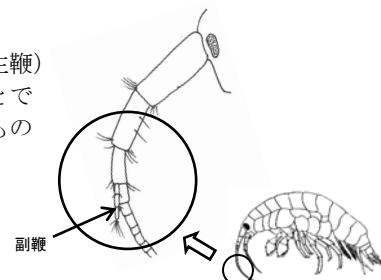
呼吸盤 (こきゅうばん)

ガガンボ類の腹部末端にある呼吸のための部位。呼吸盤の周りには、様々な形状の肉質突起があり、種を識別する際のポイントとなっている。



副鞭 (ふくべん)

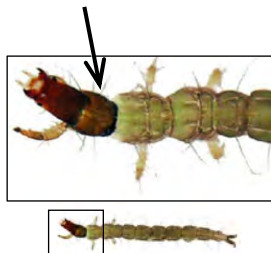
ヨコエビ類の触角(主鞭)の脇から出る鞭のことであり、退化しているものもある。



キチン板 (きちんばん)

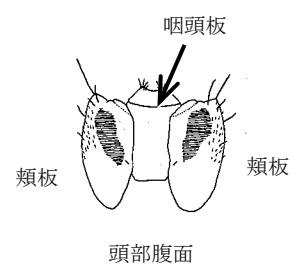
キチンとは、カニやエビの甲殻や昆虫の外皮などを構成する生体高分子(多糖類)のことで、キチン板は、キチンによってタンパク質が硬化し板状となったもの。

前胸 (キチン板で覆われる)



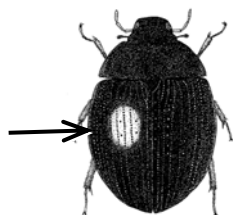
咽頭板 (いんとうばん)

トビケラの咽頭部の外殻で頬板に挟まれている。



鞘翅 (しょうし)

コウチュウ類などでみられる翅の型のひとつで、前翅がキチン化して、硬くなったもの。コウチュウ類の多くでは、鞘翅が後翅、腹部等をおおっている。



額角 (がっかく)

エビなどで頭部がら伸びる角のこと。種によって長さや棘のつき方、棘の数などが異なる。種を識別する際のポイントのひとつとなっている。

